



安全・安心をお届けいたします

## グリーンプロジェクト情報 第7号

発行：庄内みどり農業協同組合  
協力：酒田農業技術普及課

# 有効茎を確保したら 速やかに作溝・中干しを！

1か月予報（仙台管区気象台6月10日発表）によると、気温は高い、降水量は平年並、日照時間は少ない予報です。天気予報を活用し、中干しのタイミングを逃さないようにしましょう。

移植時期や田ワキ等により生育差が見られますので、圃場ごとの生育状況を確認しましょう。各品種の目標茎数を確保した圃場では遅れずに作溝・中干しを実施し、根の充実を図り、適切な生育調節で適期に適量の穂肥ができる稲姿にしましょう。収量・品質・食味の3拍子揃った米づくりには、しっかり穂肥ができることが重要です。

6月10日現在の生育診断圃の生育は、草丈は平年並からやや短く、茎数は「はえぬき」は平年並、「つや姫」「雪若丸」はやや少なく、葉色は「はえぬき」「つや姫」は平年並、「雪若丸」淡いとなっています。（表1参照）

### 技、其の一 作溝・中干しは遅れずに！

作溝・中干しは、土壌中のアンモニア態窒素を減少させ、無効分げつや節間伸長の抑制と根の健全化が図られ、登熟及び品質向上につながります。また、収穫期までの効率的な水管理を行なう上でも重要な作業です。

目標茎数の80%を確保した圃場では、落水して作溝・中干しを行いましょ。作溝・中干し開始時期の目安は8葉期の有効分げつ決定期（左下表参照）です。

圃場によって生育差がありますので、茎数・葉齢を確認して遅れずに作溝・中干しを開始しましょう。

中干し終了後は、走り水等で徐々に根を慣らしながら間断灌水に移行しましょう。但し、気温18℃以下の低温時や強風時には直ちに深水とし、稲体を保護しましょう。

#### ◎品種別、土壌別、作溝・中干しの開始目安（有効茎数の8割）

品 種	1株当り茎数 (70株/坪の場合)	作溝の間隔		中干しの程度
		壤土	埴土	
はえぬき	21本	4~5m	2~3m	小ひびの入る程度 (白乾亀裂はさせない)
つや姫	18本			
雪若丸	22本			

※KSKの施用時期：出穂35~30日前 1.4kg/10a（中干し後の入水時）

表1. 現在の生育状況（6月10日現在の生育診断圃データ）（）内は平年比・差

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉色 (SPAD)
はえぬき	29.8 cm ( 97)	418 本/m <sup>2</sup> (108)	7.1 (+0.3)	40.4(+0.3)
つや姫	29.7 cm ( 96)	228 本/m <sup>2</sup> ( 91)	7.0 (+0.8)	38.6(+0.8)
雪若丸	22.4 cm ( 86)	232 本/m <sup>2</sup> ( 83)	6.4 (-0.4)	36.6(-4.4)

#### 6月20日時点の各品種別指標値

はえぬき	草丈33.0cm	茎数500本/m <sup>2</sup>	葉数8.3	葉色40.0
つや姫	草丈35.0cm	茎数460本/m <sup>2</sup>	葉数8.3	葉色39.0
雪若丸	草丈34.0cm	茎数520本/m <sup>2</sup>	葉数8.5	葉色44.0

※現在、この数値に近い生育になっていますか？

### 技、其の二 こまめな圃場管理で病害虫を防除！

#### ◎イナゴ

幼虫が発生しています。薬剤の使用は各地域の防除計画に基づき対応して下さい。

#### ◎斑点米カメムシ類

カメムシの発生量は“多い”と予想されています。生息密度の低減を図るため、畦畔、灌排水路・農道法面など、こまめな草刈りを徹底しましょう。圃場内においてはヒエ・ホタルイ等の残草の除去と防除を徹底し、発生密度の低減に努めましょう。

#### ◎葉いもち

内陸地域において、補植用取置苗での葉いもち病の発生が例年より多く確認されております。また、準感染好適条件の出現も過去10年で最も多くなっております。圃場に放置している補植苗は、すぐに処分して下さい。薬剤散布を計画している圃場では、オリゼメート1キロ粒剤を直ちに散布しましょう。特に山間部や風のよどむ場所、乾田V溝直播栽培での肥料重複箇所等、生育量の多いところでは散布が遅れないように注意して下さい。

#### ◎紋枯病

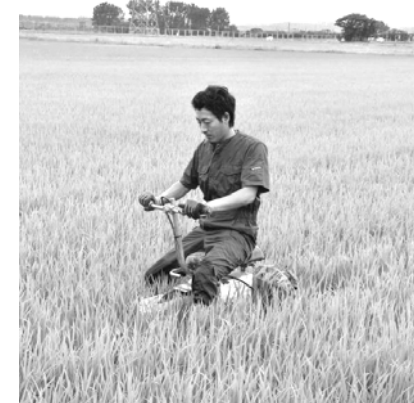
昨年多発した圃場では、モンガリット粒剤等の使用を検討しましょう。

#### ※特別栽培米生産者の皆様へ

特別栽培米生産圃場では、計画された薬剤以外は使用できません。圃場をよく見回り、病害虫の発生が確認されたら各営農課へご相談下さい。

#### ●残留農薬等のポジティブリスト制度が施行されております。

ドリフトが原因で農産物が流通（出荷・販売）不可となった場合、農薬散布者の責任となります。防除の際は周辺作物に飛散しないよう風速・風向に注意しましょう。



作溝作業は熱中症に注意して！

## 大豆栽培のポイントは中耕培土

今年は5月下旬に断続的な降雨があり、播種始期が全体的に遅れました。播種時期によって生育差がありますので、生育に応じて管理作業を行いましょう。今後、梅雨の影響で雨の日が多くなると、排水不良田では湿害により生育が停滞し、雑草が発生して品質や収量に大きく影響を及ぼします。中耕培土は、耕種的な除草方法であると同時に有効な湿害対策でもあります。タイミングを逃さず遅れずに実施しましょう。

また、ネキリムシの被害は今のところ確認されていませんが、圃場周辺の除草を徹底するとともに、被害が見られる場合は「ネキリエースK」を3kg/10a(使用時期:大豆本葉2葉期迄)で防除しましょう。

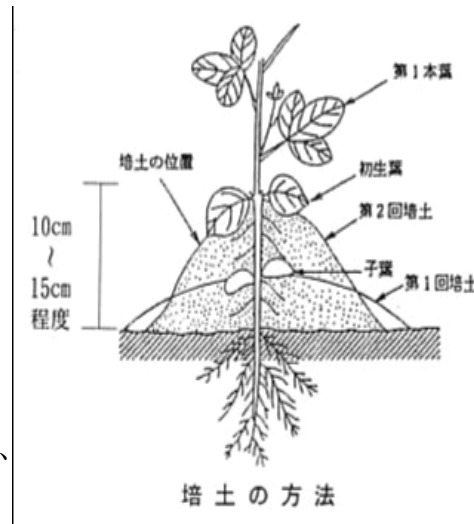
### 1. 本葉3葉期頃の中耕培土(1回目) 6月15日~25日頃(適期播種の場合)

- ①中耕は、早め早めの対応が効果的です。
- ②除草剤の効果が切れて、雑草の発生が目立ってきたら、遅れずに実施しましょう。

### 2. 本葉6~7葉期頃の中耕培土(2回目) 7月5日~20日頃

- ①尿素を現物10a当り10kg(N成分4.6kg)を施肥しましょう。  
注) 基肥に「庄内みどり大豆一発号」を施肥した場合は、①の追肥は不要です。
- ②追肥後、初生葉が隠れる位置まで、しっかり培土しましょう。
- ③ヒエ等のイネ科雑草(ズメカビラを除く)には、ワンサイドP乳剤を雑草茎葉散布、またはポルトフロアブルを全面散布しましょう。また、広葉雑草の発生が見られたら遅れずに大豆バサグラン液剤を雑草茎葉散布しましょう。

**(除草剤を散布する際は、隣接する作物への飛散に注意しましょう!)**



## 《園芸情報》

### 薄皮ミニトマト「ピンキー」の管理について



今年度も4月よりミニトマトの栽培が始まりました。下記のポイントに注意して栽培を行いましょう。目標収量は夏秋栽培で10aあたり4tです。

#### 1. 着果処理

着果促進のためブローアなどの振動受粉、高温期にはトマトトーンを花房に散布し着果させます。生長点への散布や高温時の散布は薬害を生じる恐れがあるため、トマトトーンは生長点にかからないように注意し、気温の低い早朝もしくは夕方に行うようにしましょう。使用回数は1花1回です。

#### 2. 灌水・換気

急激に多量の灌水を行うと裂果の原因となるため、灌水は少量多回数で行うことを心掛け、土壌水分を変動させないようにすることが大切です。また、ハウス周辺に明渠を掘るなどし、雨天時にハウス内浸水が起きないようにしましょう。

病害発生防止のため、天候が雨でも1日1回は多湿回避の為にハウス内の換気を行ってください。

#### 3. 追肥

第2花房開花が追肥開始の目安です。高温や着果数の増加により草勢は低下してくるため、追肥は液肥で窒素成分量0.5~1kg/10aを1週間間隔(メリット黄など)、または化成肥料で窒素成分量3~4kg/10aを2週間間隔(燐硝安加里S604など)で行うようにしましょう。追肥量は草勢に合わせて調整するようにお願いします。

#### 4. 高温対策

ハウスの開口部や妻窓は全開にし、気温を下げましょう。遮光資材は、遮光率が低いもの(30~40%)を使用してください。※ダイオシートの使用は避けましょう。

高温により、ホウ素や鉄欠乏症状が見られています。微量元素入りの葉面散布剤(エイトビーなど)を定期的に散布しましょう。

#### 5. 薬剤防除

害虫では、気温の上昇に伴ってアザミウマ類の被害が発生してきます。ハウスサイドや入口に防虫ネットを張っていても被害が発生する場合があります。花や果実などで発生が見られたらモスピラン顆粒水溶剤、またはディアナSCなどで防除を行ってください。また、粘着版を花房近くに設置し、アザミウマの発生予察や捕殺に努めましょう。

病害では、梅雨期に入ると葉かび病・灰色かび病が発生しやすくなるのでカリグリーン、またはダコニール1000などで予防防除を実施しましょう。農薬は各園芸センターより防除暦が配布されているので、そちらを参照の上ご使用ください。

**※農薬登録上、「トマト」と「ミニトマト」は別になりますので、必ず「ミニトマト」の登録農薬を使用してください。**

**※農薬を使用する場合は必ず容器のラベルを確認してから使用してください。**

**※農薬を使用する場合は収穫前日数を厳守して使用して下さい。**

**ご不明な点がございましたら、各園芸センターへお問い合わせください。**

★次号の発行は7月6日(予定)です!

### ■無人ヘリコプターによる一斉防除が始まります

今年も無人ヘリコプターによる一斉防除が6月下旬から始まります。

地域ごとに詳しい防除日程等をお知らせ致しますが、ご迷惑をおかけしないよう万全の対策を講じてまいりますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。尚、お子様のいるご家庭におかれましては、無人ヘリコプターには絶対近づかないようお願いいただければ幸いです。

また、近年ドローンを使用して薬剤散布をする生産者が散見されます。安全な無人ヘリ防除作業をするために、ドローンを使用する方は各営農課までご連絡下さるようお願いいたします。

JA庄内みどり無人ヘリ防除連絡協議会



### つや姫・雪若丸情報コーナー



#### 初期生育はバラツキ大きい!

#### 茎数を確認して遅れずに作溝・中干しを

○つや姫の目標穂数は、440本/m<sup>2</sup>、坪70株植えて1株20~21本です。雪若丸の目標穂数は、580本/m<sup>2</sup>、坪70株植えて1株26~27本です。

○各圃場の株あたり茎数を確認し、目標茎数を確保したら(つや姫では70株植えて18本/株、雪若丸では70株植えて22本/株)、気象変動に負けないよう、しっかり作溝・中干しで根の充実を図りましょう。